

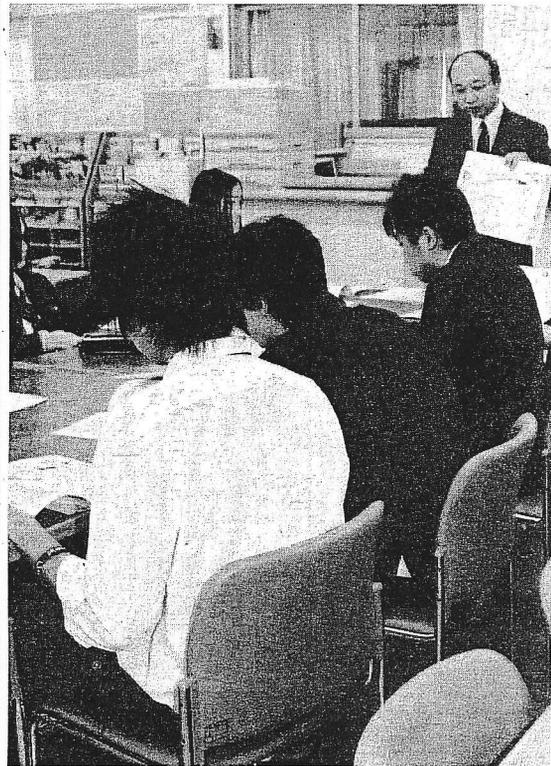
厳しい雇用情勢が続く中、就職先が決まらない学生の卒業後の受け皿づくりが本格化している。行き場を無くさないための支援が必要とされており、昨年度から「就活講座」を開くNPO法人は、県内の大学、高校を回って案内に奔走。内定が出な

困窮者は

い場合に備え、説明会を開いている学校もある。大学生より内定率が高い高校生だが、県内ではいまだに約1800人が未内定で、説明を受けた生徒からは「卒業後はどうしてよいか分からない。知って良かった」との声が上がる。

厳しい就職戦線に県内学校

の生徒はまた約1800人もいる。県内にある私立高校では、「新就職氷河期」への対策として、就職は「なく」できるだけ専門学校への進学を勧めてきた。「不安定な経済情勢で、手に職を付け継続して仕事に就けるように」と同校教諭との思いからだ。例年80〜90人いる就職希望者は本年度は半分になったが、まだ約10人の就職が決まっていな



就職先が決まらず、3月から始まる卒業生向け支援講座の説明を受ける高校生=21日、県内の私立高校

「卒業後どうすれば…」

学生の受け皿づくり本格化

千葉労働局によると、県内大学4年生の内定率は、昨年12月1日時点で47・9%（前年同期比1・7増）で、高校3年生は64・6%（同0・8増）。大学生よりも内定率が高い高校生だが、未内定

卒業までに就職したいが、見つからなかったらフラフラするよりは講座を受けた方がいい。女子生徒(17)は「専門学校への変更も考えたがお金がなくて…。卒業すると自分の力で生きていかなきゃいけない。この制度は本当に助かる」と話す。

学校から離れ、自分一人で仕事を探す方法が分からない高校生にとっては、講座は大きな支えとなりそうだ。

開講するNPO法人「リ・クリエイション21」では、昨年から県内の大学と高校を訪れ事業を周知。今月からは、同校の他にも、学校からの要請を受けて説明会を開くなど、卒業後に向けての動きが本格化している。

国は「卒業前の集中支援」として、2〜3月限定で、今春卒業予定の学生を採用した企業に奨励金を出すほか、合同面接会を追加開催。「何とか在学中の就職を目指して」と呼び掛ける。求人がある以上、諦めるには早い。万が一、仕事がなくとも路頭に迷わないよう、卒業後を見据えた準備も求められている。